

## 全国高等専門学校体育大会剣道競技運営に関する申合せ事項

表記大会において、競技委員長は公正を旨とし、剣道競技専門部並びに地区専門部の協力を仰ぎ、錯誤のないように留意して、競技を主催・運営する。

### [競技運営に関する事項]

- 1 大会運営役員及び大会参加登録者（選手、監督、コーチ、マネージャー）は、高等専門学校の大会として相応しい身嗜みに気を付けること。地区専門委員においては、地区予選会においても同様に指導するとともに、全国大会参加者には、地区代表として相応しい身嗜みとなるよう指導する。  
なお、大会参加登録者の服装について、選手は、(財)全日本剣道連盟試合規則に従い、剣道着、剣道具の着装、点検等、安全面に十分留意する。監督、コーチの服装については、白シャツにズボン（黒、灰または紺系統色）とし、学生コーチ、マネージャーについては、チームのユニフォーム、制服等とする。
- 2 試合会場には、大会参加登録者のみが入場できる。また、個人戦においては、該当選手及び監督、コーチ（代理を含む）のみが試合会場に入場できる。応援者は指定の応援席でマナー良く応援することとする。試合会場では、大会要項、競技規則及び会場規則に従う。
- 3 男子団体試合で 5 名に満たない場合の特例として、3 名の場合、先鋒・中堅・大将に選手を置き、4 名の場合、先鋒・中堅・副将・大将に選手を置く。また、女子団体戦で 3 名に満たない場合は、先鋒と大将に選手を置く。
- 4 竹刀については、安全に十分配慮し、(財)全日本剣道連盟試合規則に準じ、教育的な配慮のもとで使用すること。また、二刀を使う選手は、4 年生以上の者に限ることとする。

### [組み合わせに関する事項]

- 1 組み合わせ会議は、大会審判長・地区専門委員・地区専門部（剣道部顧問）委員の出席の上で開催する。組み合わせは、前年度の成績・地区予選の成績を考慮し抽選とする。また、組み合わせについては、公表する前に剣道競技専門委員長ならびに各地区専門委員に確認をとる。
- 2 団体戦の組み合わせについては、前年度入賞校をシードする。ただし、① 1 2 校による予選リーグの場合と② 1 6 校によるトーナメントの場合で次のように組み合わせを決定する。  
① 1 2 校による予選リーグの場合  
シードについては、前年度優勝校を組み合わせ表の 1 番に、第 2 位校を 10 番に、第 3 位校 2 校の内、優勝校に敗れた第 3 位校を 7 番に、準優勝校に敗れた第 3 位校を 4 番にシードする。前年度入賞校が出場しない場合は順次繰り上げる。また、各地区予選の第 2 位校、開催校枠のみで 1 つのブロックを作らないようにする。  
② 1 6 校によるトーナメントの場合  
シードについては、前年度優勝校を組み合わせ表の 1 番に、第 2 位校を 16 番に、第 3 位校 2 校の内、優勝校に敗れた第 3 位校を 9 番に、準優勝校に敗れた第 3 位校を 8 番にシードする。前年度入賞校が出場しない場合は順次繰り上げる。また、各地区予選の第 1 位校同士の対戦がないようにする。  
なお、上記①と②を決めるにあたり、同一地区内のチームは、左右のブロックに振り分け、決勝戦までは対戦しないことを先に考慮する。また、開催校を含め、同一地区より 3 校が出場となる場合は、同一地区出場校が予選リーグまたは、準決勝戦まで対戦しないようする。
- 3 個人戦の組み合わせについては、前年度入賞者をシードする。個人戦のシード順は、団体戦のトーナメントと同様にし、前年度優勝者をトーナメント表の最初に、第 2 位を最終に、第 3 位を中央にシードする。前年度入賞者が出場しない場合は、順次繰り上げる。  
上記を決めるに当たり、同一校の選手は決勝戦まで（無理な場合は準決勝戦まで）、また、同一地区内の選

手は準決勝戦まで（無理な場合は準々決勝戦まで）は対戦しないようにする。また、1 回戦で各地区予選第 1 位同士が当たらないように配慮する。

- 4 団体戦リーグ戦の試合順序については、A から D までの各ブロックで、試合順序を次のように組む。A ブロックでの試合順序は番号 2-3 の対戦を第 1 試合目に、1-3 を第 2 試合目に、1-2 を第 3 試合目とする。以下、B・C・D ブロックについても A ブロックと同様に組むものとする。なお、第二試合場 C・D ブロックについては外側の D ブロックから試合を始めるものとする。

以 上